

授業コード	C007010000	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	公益事業論		
英語科目授業名	Public Utilities		
科目ナンバー	CAMAG3314		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中瀬 哲史		
履修上の制限			
科目の主題	現在、日本の公益事業は規制緩和と称された「規制改革」を経験し、次にいかにしてマネジメントを実施するのが問われています。もう一方で、「公共経営学」が求められるように、新たな公民連携の形が追求されようとしています。そこで、今回はこのような公益事業の現状について、その歴史的な展開を踏まえつつ、将来の展望を検討していきたいと考えています。		
授業の到達目標	<p>「科目の主題」で述べましたように、これからの日本の公益事業は、マネジメントの追求をしつつも、その性格から新たな公民連携、公共経営のあり方を検討することが必要です。というのも、従来、公益事業はインフラストラクチャーだと認められ、その「公益性」は企業性と公共性のバランスされるものと考えられてきました。そして、一口に公益事業と言っても、すでに技術革新の進展を背景に盛んな企業間競争にある通信事業、放送事業、郵便事業があれば、人口減少、高齢社会という社会変化を直截に受けてそのあり方に注目の集まる鉄道事業、バス事業、航空輸送業という交通事業があり、またこれから競争の進展、民営化が課題となる電気事業、ガス事業、水道事業というように性格の異なる事業が含まれています。そのため、性格の異なる事業を一緒に議論するのは適切かとの議論が予想されます。それでも、公益性という切り口から捉えることはこれからの社会にとって大変貴重であり、重要なものと考えます。というのも、現実には、単純に市場か組織か、民間経営か公経営かという二項対立的なものに対応できるものではないからです。</p> <p>そこで、本授業の到達目標とは、公民連携、公共経営の現実に関し、これからの公益事業について一緒に考えていただいで、現在の企業社会の奥深さを議論し、企業社会に対する認識を深めていただくことです。</p>		
授業内容・授業計画	<p>第1回：ガイダンス 第2回：エネルギー事業①（電気事業） 第3回：エネルギー事業②（ガス事業） 第4回：エネルギー事業の現状と将来 第5回：水道事業 第6回：通信・放送事業①（通信事業） 第7回：通信・放送事業②（放送事業） 第8回：通信・放送事業③（郵便事業） 第9回：通信・放送事業の現状と将来 第10回：運輸事業①（鉄道事業） 第11回：運輸事業②（バス事業） 第12回：運輸事業③（航空事業） 第13回：運輸事業の現状と将来 第14回：公益事業と環境統合型生産システム 第15回：定期試験</p> <p>なお、ゲストスピーカーとして、複数の学外講師に講演を依頼する予定である。</p>		
事前・事後学習の内容	<p>次回の授業のキーワードを前回の授業時に予告します。 次回授業の冒頭で、簡単に前回授業の復習を行って、受講生に前回授業について確認していただきます。</p>		
評価方法	定期試験の結果とゲストスピーカーの講演時の感想等によって評価する。		
受講生へのコメント	<p>まずは、受講生の周りにある「公益事業」に関心を寄せてほしいと思います。そして、それら公益事業はどのように社会と関係をもっているのか、その上でどのような事業運営がされているのかを考えてみてほしいと思います。</p>		
教材	授業時に適宜提示します。		